

# JMC Club

会報第2号 1999年7月

発行：日本機械設計技術者クラブ  
東京都中央区日本橋本町3-5-11  
TEL:03-3279-1093 FAX:03-3279-1009  
編集兼発行人  
会報委員会・委員長 高坂 始

## JMC 第一回定時総会開催

## 定時総会状況

1. 月 日：平成11年6月4日（金）
2. 場 所：東京・虎ノ門パストラル（桐の間）
3. 平成11年度 通常総会  
本人出席／17名 委任状提出／61名
4. 議 案  
第一号議案 平成10年度事業報告  
第二号議案 平成10年度決算報告  
第三号議案 平成11年度事業計画及び予算  
第四号議案 役員を選任  
第五号議案 JMCの規約改定

以上の議案について、議場に諮ったところ異議なく承認された。また、新たに決まった役員・委員は以下の通り。

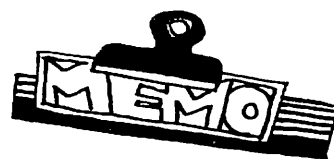
- (会 長)  
岡村 信克 日刊工業新聞社 取締役
- (副 会 長)  
上手 茂明 都エンジニアリング(株) 社長
- (代表世話人)  
田中 仁 (株)カンセツ 顧問  
(セミナー担当)
- 高坂 始 三和工機(株) 部長  
(会報委員長・関東地区担当)
- 細井 孝三 竹田設計工業(株) 技師長  
橋川 政仁 中日本技研(株) 課長  
(中部地区担当)
- 武内 弘光 近鉄エンジニアリング(株) 部長  
(関西地区担当)
- 清水健太郎 (株)清水設計事務所 専務取締役  
横山 勝則 (株)大興 常務取締役  
(中・四国地区担当)
- 奥切 武男 (有)大分技研工業 社長  
(九州地区担当)
- (世 話 人)  
宮崎 雄司 川鉄エンジニアリング(株) 室長  
山本 省三 (株)日本コンサルティング 取締役  
(会報委員兼務)
- 滝沢 弘典 サンテック(株) 社長  
(会報委員兼務)
- 村本 輝英 日本総業(株)  
(会報委員兼務)
- (会報委員)  
尾間 満雄 日本製紙(株) 主査

去る6月4日（金）JMC第一回定時総会が開催されました。今回は、機械設計技術者試験の主催団体である（社）日本機械設計工業会の平成11年度通常総会並びに同工業会の社団法人化10周年記念式典も同会場で開催され、JMC会員も同式典に招待を受け参加いたしました。

記念式典には来賓として、（社）日本機械設計工業会の主務官庁である通商産業省から機械情報産業局産業機械課・課長・藤田昌弘氏をはじめ、所管省庁、関係諸団体並びにJMC会長として、岡村信克氏も列席し、「JMCとしても試験制度の啓蒙活動を鋭意行っていくと同時に、日刊工業新聞社という立場からも試験制度の発展に支援していきたい」と挨拶。改めて（社）日本機械設計工業会とJMCの協力体制が確認されました。

また、式典後に行われた、工業会とJMCの合同懇親パーティーでは、総勢100名以上の出席があり、大変盛大に、そして和らかな雰囲気、歓談と料理を楽しみました。

本総会には、新たに世話人に出選された会員も参加され、中には富山、広島など遠方からの参加者もあり技術者同士の会話もはずんでいるようでした。JMCの代表世話人同士は、設立当初から会議などを通じて面識はあるものの、一般の会員が集まる機会は未だ少なく、今後、各地区でこのような懇親の場を設けJMC会員同士の交流が必要と改めて感じました。

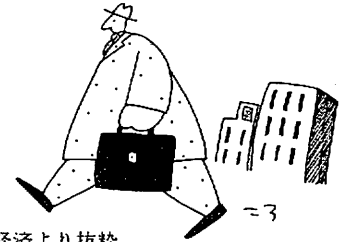


JMCでは、インターネットにホームページを公開しています。

JMCホームページ・アドレス  
<http://www.sun-inet.or.jp/~kogyokai/jmc>

まずは下図を見ていただく。ミスミという金型部品卸の企業が社員の年俸査定で使っている基準である。

年俸	要件
1000万以上	その事業の第一人者として社内の誰もが認める人材
850万 (800~999)	リーダーとしての存在価値十分。その名が知れ渡っている人材
750万 (700~799)	この話ならあいつというほどの得意分野を確立している人材
650万 (600~699)	中堅として安定、将来のチームリーダー的人材
550万 (500~599)	中堅として徐々に実力を発揮しつつある人材
450万 (400~499)	得意分野を有し将来性も彷彿とさせる人材
350万~400万	主に定型業務を担当する人材



東洋経済より抜粋

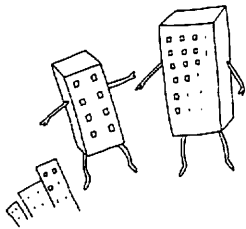
社員を労働市場における実力の視点から評価し、マーケットバリュー（市場相場価値）の概念を導入している所に特徴がある。ご自分の年収と仕事ぶりを思い浮かべながら、眺めていただくのも良いかも知れない。

同社の事例だけでなく、ビジネス情報誌でも、「あなたの市場価値を測ります」式の記事は多く、不景気時代のサラリーマンの関心を集めているとも言えよう。社外で自分がどこまで通用するのかを意識する人が多くなったのである。

従来、求められる人材像として挙がっていたのは「明るく元気で協調性もあり、いたって真面目」という項目であったと思う。これからは少し違って来る。所与の条件下で何を考え、何をしたのかが問われることになる。こういう企画を立ち上げ、その実現のために周りの人をこうして巻き込んだ。部下管理面では、こうした工夫をしたという現実の仕事に密着した話が出るのがポイントとなる。

次の問いかけに答えられるように意識をもって仕事をしていただきたい。

- 過去1年内における仕事の成果を1つ挙げて下さい。あなたが中心となってリードしたものに限りませう。
- それに取り組むきっかけは何でしたか。
- 成果を出す上での山場は何でしたか。予想しなかった事がありましたか。それをどう乗り越えましたか。
- 周りの人の協力をどう取り付けましたか。もめ事をどう切り抜けましたか。
- もう一度、同じ仕事に取り組むとしたら、どこに改善点がありますか。



なかなか酷しい問いかけではあるが、こうした質問に「よくぞ聞いてくれた」と嬉々として受け答える人材は転職市場でも評価が高いとのこと。指示待ちでなく、自律的に行動し、具体的な成果に繋げた話を多く持つことが自分の市場価値を高める近道のようなのだ。

## 5W1H+PDCA=ISO

「皆さん5W1Hを知っていますか？」と質問すると、半分程度の方は「知っている」と答えてくれます。

「5W1Hを仕事に生かしていますか？」と質問すると、それが又半分減ってしまう。

「全ての仕事を、5W1Hを活用して文書化していますか？」と質問すると又々半分に減ってしまう。

5W1Hは、仕事の文書化のポイントなのです。

「皆さんPDCAを知っていますか？」と質問すると、半分程度の方は「知っている」と答えてくれます。

「PDCAを仕事に生かしていますか？」と質問すると、それが又半分減ってしまう。

「全ての仕事でPDCAを回していますか？」と質問すると、又々半分に減ってしまう。

PDCAは、仕事の継続的改善のツールなのである。

知っているも活用しない人、一度活用しても継続しない人、ああ勿体ない！勿体ない！冒頭に掲げた筆者の質問の全てが「YES」の企業は、「ISOの認証取得企業」又は、「いつでも認証取得可能な企業」であると思います。又、「ISOの認証を取得する」ことにより、冒頭に掲げた質問の全ての項目に関して「YES」の企業に変身出来るのである。

現在、企業では「ISO 9000」や「ISO 14000」がもてはやされている。ISOは、トップの定めた目標を達成するために、仕事のやり方を文書化し、記録し、目標を達成する迄、継続的改善を実施する仕組み（ソフト）の国際規格である。これは、「ISO 9000」でも「ISO 14000」でも共通である。

### 備 考

5W1H：WHAT（なにを）、WHEN（いつ）、WHERE（どこで）、WHO（だれが）、WHY（なぜ）、HOW（どのようにして）

PDCA：PLAN（計画）→ DO（実行）→ CHECK（反省）→ ACTION（改善立案）

ISO：INTERNATIONAL ORGANIZATION for STANDARDIZATION

自動車関連では、次代の交通システムとして注目されるIntelligent Transport Systems（高度道路情報システム）構想が本格的に始動する。エレクトロニクスではCommunication Satellite（通信衛星）放送に続いてBroadcasting Satellite（放送衛星）、地上波でもデジタル放送がスタート。プラズマディスプレイなど従来のブラウン管に代わるディスプレイの登場も間近に迫ってきた。しかもこうした技術に関する産業は多岐にわたるだけに、業界地図を一変させる可能性もはらむ。技術の変革を無視した企業は21世紀に勝ち残れなくなることは必死だ。

項目	現状の問題点／他	動向及び効果
I T S	<ul style="list-style-type: none"> <li>・交通状態による経費損失は12兆円</li> <li>・交通事故による死亡者1万人／年での損失は4.4兆円</li> <li>・排気ガスによる環境問題の深刻化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後20年間でほぼ54兆円、全世界では200兆円に達すると言われており自動車、電機、商社約200社が既に参入している。</li> <li>・人、道路、クルマを情報通信技術でつなぎ安全性や輸送効率、快適性を上げかつ環境保全を図る。</li> </ul>
自動車	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事故、渋滞、環境の悪化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ITSを実現する為には、クルマ自体をインテリジェント化し利用システムもインテリジェント化していかなければならない。</li> <li>・先進安全自動車（ASV）開発技術の推進。</li> <li>・VICSとリンクして渋滞や事故交通規制や駐車場の情報サービスをリアルタイムに利用出来る様にする。</li> <li>・ETCシステムの導入。</li> <li>・直噴エンジン、電気、燃料電池、ハイブリットなど安全対策と共に業界再編の要因に。</li> <li>・乗員保護に加え歩行者保護。（歩行者傷害軽減ボディの開発）</li> </ul>
ディスプレイ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テレビが登場して45年、今や1部屋に1台の時代になった。「量の拡大」を達成し「質の変化」へ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「軽薄・長大」…フラットテレビの販売比率が7～8割まで高まっておりその売れ筋が32～36インチの大型タイプである。</li> <li>・より高精細な映像への変換（走査線525→1050化へ）</li> <li>・液晶、プラズマディスプレイなどポストブラウン管として浮上。（液晶：20インチ以下、プラズマ：40～50インチ）</li> <li>・壁掛けテレビ実用化（有機EL,FED）</li> </ul>
電子商取引 ・決算	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現金のハンドリング</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICカードの実用化（コンピュータ・ネットワーク上での取引決済技術。電子などの関連産業、技術多岐に…現在世界で5億、2000年過ぎは20～50億枚規模へ）</li> <li>・J-Debitが1月4日からスタートした。</li> <li>・現金ハンドリングコストの削減。</li> </ul>
家庭用 デジタル端末		<ul style="list-style-type: none"> <li>・CS放送に続きBS、地上波がデジタル化</li> <li>・インフラ投資は巨額</li> <li>・テレビ買い替え促進</li> </ul>
ファイン セラミックス		<ul style="list-style-type: none"> <li>・耐熱、耐磨耗、耐食性などに優れた新材料</li> </ul>
太陽電池	<ul style="list-style-type: none"> <li>・有効利用賃</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・太陽エネルギーを電気エネルギーに交換</li> <li>・クリーンなエネルギーとして期待大</li> </ul>
高機能住宅		<ul style="list-style-type: none"> <li>・インテリジェント化や省エネ化など新次代の住宅として期待大</li> </ul>

BS放送：日本は東経110度の静止衛星軌道位置と8チャンネルの割り当てを受けている。4チャンネルが現在使用され、残り4チャンネルをいうデジタル放送が計画中で、2000年に導入の予定である。

CS放送：この衛星放送はもともと通信用である12.2～12.75GHzの周波数帯を使用したもので、周波数チャンネルや軌道位置が国際的に割り当てられていないため、比較的柔軟に導入可能であり、チャンネル数も多く確保できる。

E T C：ノンストップ自動料金収受の意 VICS：道路交通情報通信システムの意

J-Debit：通常のキャッシュカードで代金決済ができる FED：フィールド・エミッション・ディスプレイ

直噴エンジン：GDI（Gasoline Direct Injection）シリンダー内に直接ガソリンを噴射する、画期的な方法のエンジン。 東洋経済より抜粋

# JMC 関西地区

## 研修会開催される

日時：平成11年6月25日（金）  
午後2時から  
場所：日立造船株式会社 堺工場  
出席者：30名  
懇親会 17：00～19：30  
この研修会の内容が日刊工業新聞社'99/7/9  
“列島ネットワーク”に掲載された。

## JMC 日立造船 堺工場で研修 連絡橋など建造工程見学

日本機械設計技術者クラブ（JMC、東京都中央区・日本機械設計工業会内、03-3639-2204）は日立造船堺工場（大阪府堺市）で関西地区研修会を行った。30人のメンバーが夢州・舞州連絡橋（仮称）と千石積み菱垣廻船（ひがきかいせん）の建造工程を見学した。

同連絡橋は、決まれば2008年のオリンピックのメイン会場となる舞州（まいしま）と対岸の夢州（ゆめしま）とを結ぶ長さ410メートルの浮体式旋回可動橋。橋ゲタの両端がポンツーンと呼ばれる浮力体で海上に浮いた状態になっており、大型船舶の航行時には、はしけで可動橋部を押しして航路を確保、通過後は、はしけでまた戻すという「世界でも珍しい大型旋回可動橋」（横井勉 日立造船副社長）。

メンバーは設計のプロらしく担当者に技術的な質問を連発するなど「全国に先駆けた研修会で実りある1日を過ごした」（武内弘光 関西地区担当）後、近くのホテルで懇親会を行った。JMCは130人のメンバーで平成10年6月に発足した。

## JMC 中・四国地区

### 研修会開催予定

日時：平成11年8月7日（土）  
場所：未定（6/24現在）  
出席者：募集中（6/24現在）

## JMC 関東地区

### 研修会開催予定

現在計画中、また、関東地区の会員名簿を作成する。

## JMC 九州地区

### 研修会開催予定

現在計画中、また、九州地区の会員名簿を作成する。

## 次回セミナーについて

下記の項目について募集を行い、クラブ会員の研修の場とする。  
1. 設計又は施工でミスしたが、この様に改善した、その実例。  
2. 設計又は施工でこの様な苦勞、勉強、新体験した、その実例。  
3. 設計上教えてもらいたい事。

### 記

- (1) 1、2項については提案者に発表して頂きます。
- (2) 3項については、募集後会員に配布し、解答していただく講師を募集します。
- (3) 各実例発表後、意見交換の時間をとる。
- (4) 発表時間は特に問いません。但し、発表方法を含めセミナー開催前に打ち合わせする。
- (5) 開催時期・場所は応募状況をみて決定する。

## 機械設計技術者1・2級試験 講習会

JMCの目的である（社）日本機械設計工業会主催の「試験事業への支援」として講習会の協力参加者を各地区で募集しています。

協力できるJMC会員はぜひ下記まで連絡して下さい。

### 連絡先

日本機械設計技術者クラブ 事務局  
〒103-0006 東京都中央区日本橋富沢町10-15  
勢州屋本店ビル5F  
TEL：03-3639-2204 FAX：03-3639-3006  
E-mail：kogyokai@sun-inet.or.jp

### 機械設計技術者試験講習会及び

### 機械設計技術者試験監督員募集（各会場若干名）

平成11年度の機械設計技術者試験は、第5回目となる1、2級が1月23日（日）、第2回目となる3級が11月28日（日）に行われます。会場は例年と同じで1、2級が札幌、東京、富山、名古屋、大阪、広島、北九州の7会場、3級が北海道、青森、東京、神奈川、新潟、愛知、石川、大阪、広島、香川、福岡、熊本、鹿児島、沖縄の14会場を予定。また、機械設計技術者試験受験講習会も9月12日の札幌を皮切りに北九州、東京、富山、名古屋、大阪、広島、坂出と実施される予定です。

今年度から、当日の監督員が一部JMC会員に依頼されることになり協力会員を募集致します。

応募資格は、JMC会員で試験会場と同じ市内若しくは、隣接する市内にお住まいの方。（お支払いする交通費に上限が御座います。）ご協力頂ける方は、氏名、会員番号、及び開催地をJMC事務局へFAX若しくはE-mailでお知らせ下さい。お願いする方には、後日、（社）日本機械設計工業会 試験実施本部より委嘱状と資料が送られます。

### 編集後記

先日、某複写機製造メーカーの記念パーティーに招かれ、その会場で名刺交換した方の名刺に（社）日本機械設計工業会会員と印刷されていたので、お話しを伺ったところ、社長さんが工業会の関東支部のお世話をされているとの事でした。話しをさせていただいた方は営業担当の役員で技術者ではありませんでしたが、いろんな情報交換ができて有意義な一時を持つ事ができました。工業会やJMCを通じていろんな方々の出会いが有る事は、とてもうれしい事です。会員の皆様との出会いを楽しみにしています。（SY記）